

2023年度連結決算説明資料

2024年5月14日

株式会社 西島製作所 (6363)

【1】 2023年度の実績

【2】 中期経営計画の改定及び2024年度の見通し

【3】 トリシマのイノベーション

～世界の課題を解決し、社会に価値を生み出すために～

【4】 株主還元方針

【1】 2023年度の実績

【2】 中期経営計画の改定及び2024年度の見通し

【3】 トリシマのイノベーション

～世界の課題を解決し、社会に価値を生み出すために～

【4】 株主還元方針

2023年度決算ハイライト

- ✓ 受注高は880億円で、官需・民需・海外とも好調を維持。
- ✓ 売上高は811億円・営業利益は68億円で、4年連続過去最高。
- ✓ 営業利益率は8.4%、ROEは、12.8%

2023年度 連結決算実績（連結）

受注：官需は2.6%増、民需は5.1%減、海外は2.0%減で、全体では1.2%減の880億円。
 売上：官需は4.3%増、民需は25.8%増、海外は35.8%増で、全体では25.3%増の811億円。
 利益：4年連続で過去最高益を更新。保有有価証券の売却を進め、当期純利益は40.9%の大幅増。

※増減は対前年度比

単位：億円

	2022年度	2023年度	前年度比		2023年度 計画	計画比
			額	率		
受注高	890	880	▲10	▲1.1%	700	+180
売上高	647	811	+164	+25.3%	790	+21
売上総利益 (売上総利益率)	183 (28.3%)	231 (28.5%)	+48 (+0.2pt)	+26.2%	—	
販管費	124	163	+39	+31.4%	—	
営業利益 (営業利益率)	59 (9.1%)	68 (8.4%)	+9 (▲0.7pt)	+15.3%	72	▲4
営業外損益	▲2	▲5	▲3	—	—	
経常利益	57	63	+6	+10.5%	66	▲3
特別損益	▲1	22	+23	—	—	
親会社株主に帰属する 当期純利益	44	62	+18	+40.9%	53	+9

期末レート（1USD）

2023/3末:133.53円

2024/3末:151.41円

2023年度 連結調整前決算実績（単体・子会社）

■単体

	2022年度	2023年度	前年度比	
			金額	%
売上高	511	629	+118	+23.1%
売上総利益 (売上総利益率)	118 (23.1%)	142 (22.6%)	+24 (▲0.5pt)	+20.3%
販管費	78	99	+21	+26.9%
営業利益 (営業利益率)	40 (7.8%)	43 (6.8%)	+3 (▲1.0pt)	+7.5%

- ✓ 売上は、海外の大型案件の貢献が大きく+23.1%と大きく増収
- ✓ 資材や工事原価の高騰により、官需の利益率が低下。民需・海外のハイテクポンプの利益率は向上しており、全体としては高水準の売上総利益率を維持。
- ✓ 販管費の増加で大きい要因は以下2点
 - ①新分野（水素、アンモニア等）への研究開発費の増加（約6億円）
 - ②海外の増収に伴う販売手数料の増加（約6億円）

※増減は対前年度比

■子会社

単位：億円

	2022年度	2023年度	前年度比	
			金額	%
	210	273	+63	+30.0%
	70 (33.3%)	97 (35.5%)	+27 (+2.2pt)	+38.6
	54	69	+15	+27.8
	16 (7.6%)	28 (10.3%)	+12 (+2.7pt)	+75.0%

- ✓ 製造、サービス、プロジェクトとも全般的に好調で、30.0%の大幅増収。
- ✓ サービス子会社が貢献し、営業利益も大幅増。

【1】 2023年度の実績

【2】 中期経営計画の改定及び2024年度の見通し

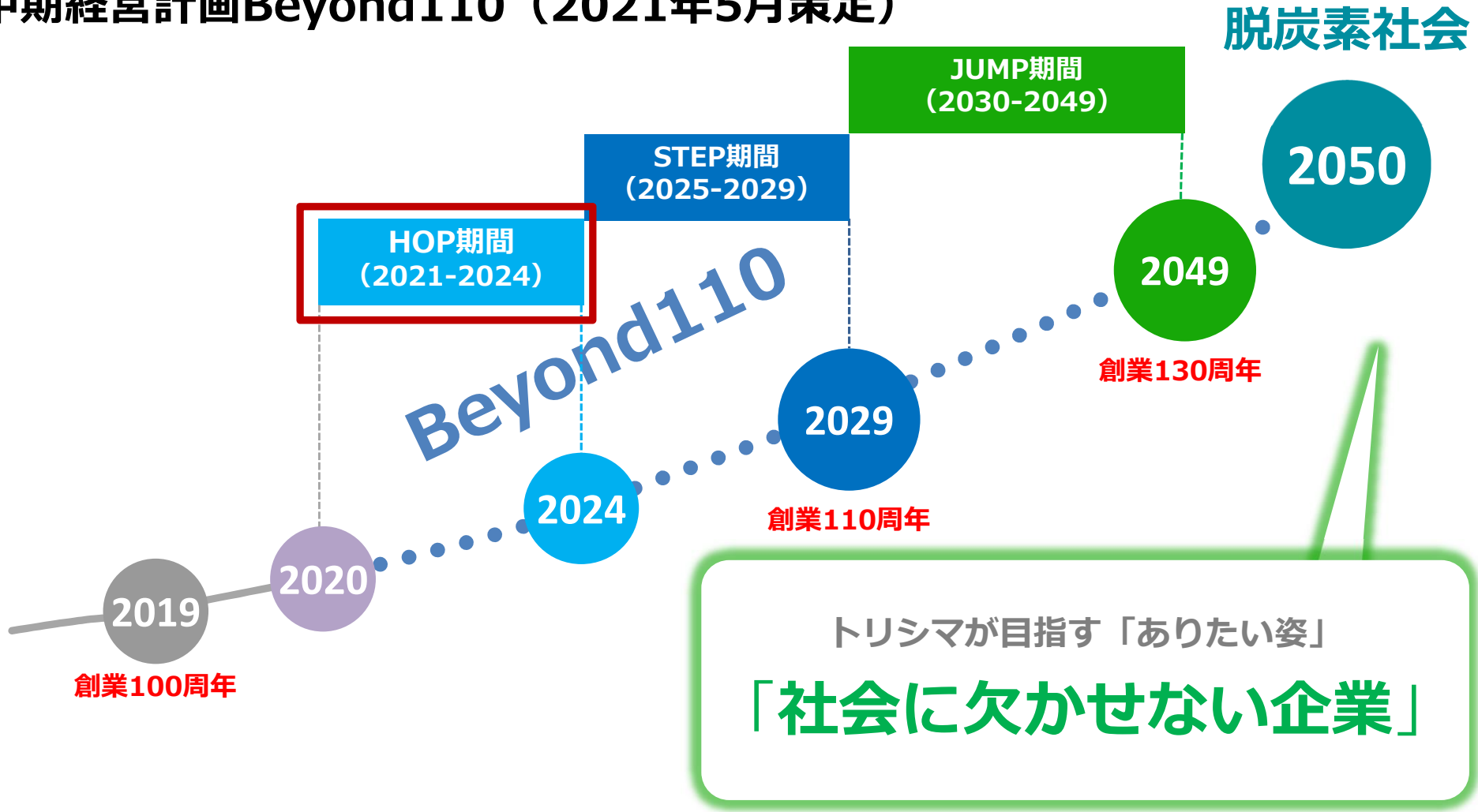
【3】 トリシマのイノベーション

～世界の課題を解決し、社会に価値を生み出すために～

【4】 株主還元方針

2050年 脱炭素社会の実現に向けたトリシマの長期ビジョン

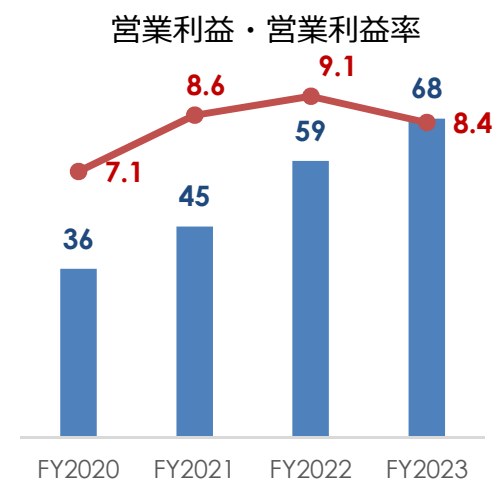
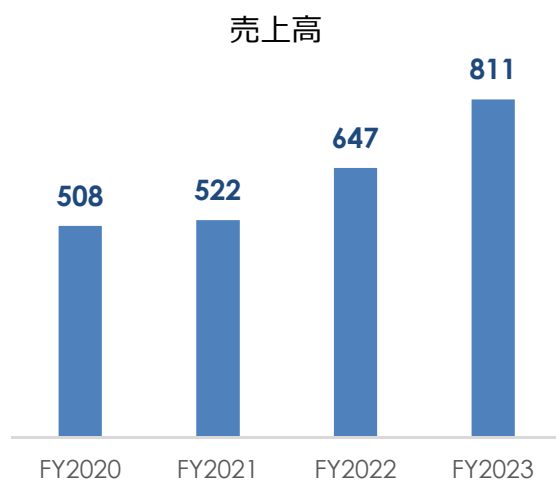
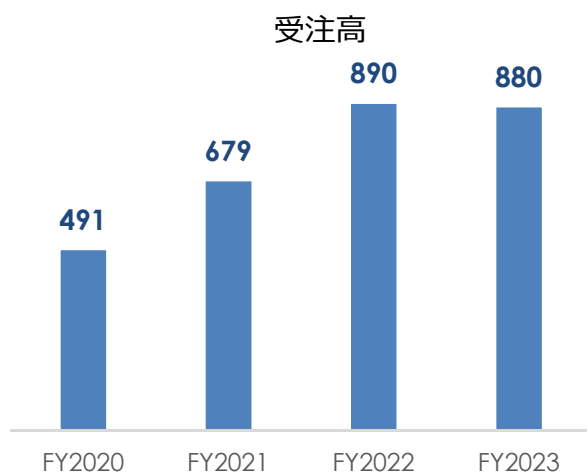
中期経営計画Beyond110（2021年5月策定）



HOP期間の進捗状況

売上高と営業利益は、**毎年度、過去最高**を更新し、2022年度には、STEP期間の最終年度である2029年度の当初目標（売上高600億円以上、営業利益50億円以上）を**7年前倒しで達成**。

	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績
受注高	491	679	890	880
売上高	508	522	647	811
営業利益 (営業利益率)	36 (7.1%)	45 (8.6%)	59 (9.1%)	68 (8.4%)

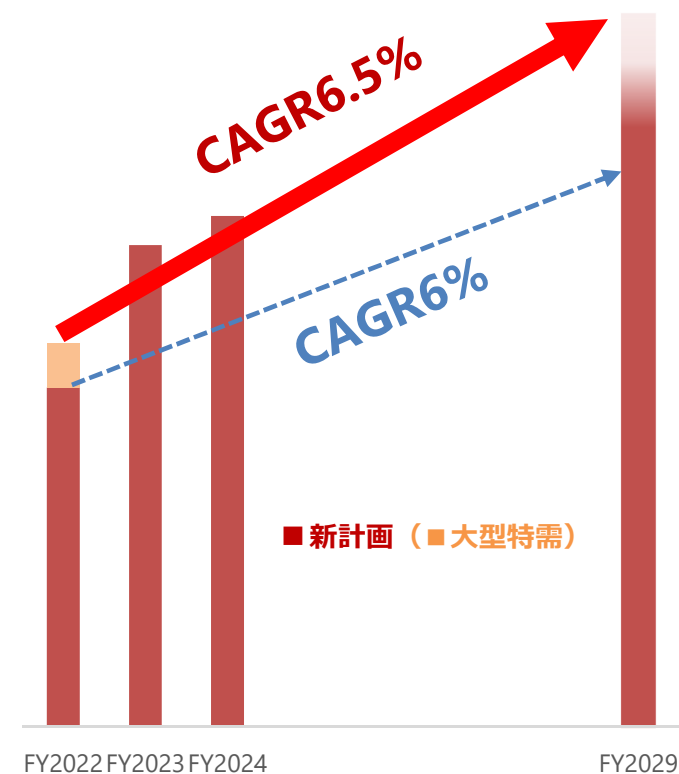


2029年度に向けた経営目標の改訂

旧計画：大型特需抜くベースで売上CAGR6%

新計画：大型特需込みで売上CAGR6.5% → **売上高1,000億円規模をめざす**

	2023年度実績	旧計画 2029年度目標 (2023年5月公表)	新計画 2029年度目標
成長性 (売上CAGR)	16.9% (HOP期間平均)	6.0%以上 (大型特需除く)	1,000億円規模 (売上CAGR6.5%以上)
収益性 (営業利益率)	8.4%	9.0%以上	10.0%以上
効率性 (ROE)	12.8%	9.0%以上	10.0%以上

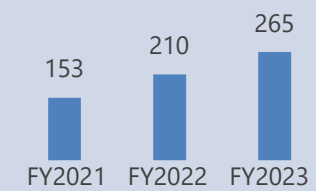
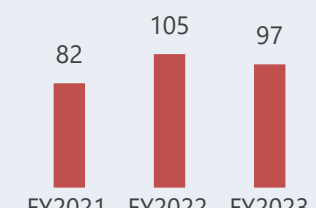
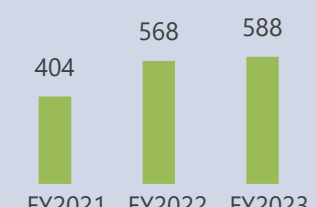


2024年度の業績見通し

受注：各需要部門で旺盛な需要を確実に取り込み、**2023年度と同規模を見込む。**

売上：豊富な受注残（950億円）を確実に消化し、**増収を見込む。**

営業利益：将来を見据えた人的投資、成長投資により販管費は増加するが、増収や利益率の改善で、**現行の収益水準の維持**する。

需要先	2024年度の見通し	年度末の受注残高 3年間推移（億円）								
官需	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な受注残から大型案件を着実に売上計上し、増収を見込む。 受注環境は、国土強靱化への公共投資で安定しており、独自技術を用いた洪水対策向けポンプの提案力を強化することで、さらなるシェアの拡大を図る。 原価高騰分の売価への反映には、1～2年の時間を要する見通し。 	 <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>受注残高 (億円)</th> </tr> <tr> <td>FY2021</td> <td>153</td> </tr> <tr> <td>FY2022</td> <td>210</td> </tr> <tr> <td>FY2023</td> <td>265</td> </tr> </table>	年度	受注残高 (億円)	FY2021	153	FY2022	210	FY2023	265
年度	受注残高 (億円)									
FY2021	153									
FY2022	210									
FY2023	265									
民需	<ul style="list-style-type: none"> 受注残は高水準を維持しており、増収を見込む。 受注環境は、脱炭素化に向けた省エネニーズの拡大などにより引き続き堅調。 新分野では、液化アンモニア向け受注の立ち上がりを期待。 サービス比率が伸びることにより、安定した利益率が見込める。 	 <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>受注残高 (億円)</th> </tr> <tr> <td>FY2021</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>FY2022</td> <td>105</td> </tr> <tr> <td>FY2023</td> <td>97</td> </tr> </table>	年度	受注残高 (億円)	FY2021	82	FY2022	105	FY2023	97
年度	受注残高 (億円)									
FY2021	82									
FY2022	105									
FY2023	97									
海外	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な受注残と好調な海外子会社事業により、増収を見込む。 利益率の向上は、サービス比率の進捗次第。 新市場（深海海水淡水化や水素等の次世代エネルギー）向け受注活動を強化。 	 <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>受注残高 (億円)</th> </tr> <tr> <td>FY2021</td> <td>404</td> </tr> <tr> <td>FY2022</td> <td>568</td> </tr> <tr> <td>FY2023</td> <td>588</td> </tr> </table>	年度	受注残高 (億円)	FY2021	404	FY2022	568	FY2023	588
年度	受注残高 (億円)									
FY2021	404									
FY2022	568									
FY2023	588									

2024年度連結決算見通し

- **5年連続の増収増益**を見込む。
- ただし、さらに円安が進んでいることに伴い、ヘッジ目的の為替予約の実現損が拡大するため、経常利益の伸びは見込めず。また、今期の保有有価証券売却益は前期の50%程度を予定しており、当期純利益は9億円程度の減少を見込む。

	2023年度実績	2024年度見通し	増減	単位：億円
受注高	880	890	+10	
売上高	811	860	+49	
営業利益 (営業利益率)	68 (8.4%)	73 (8.5%)	+5 (+0.1pt)	
経常利益	63	63	±0	
親会社株主に帰属する 当期純利益	62	53	▲9	

為替レート 2024/3末:1\$ = 151.41円 想定150円

■ 単体

	2023年度 実績	2024年度 見通し	増減
売上高	629	670	+41
営業利益 (営業利益率)	43 (6.8%)	48 (7.2%)	+5 (+0.4pt)

■ 子会社

	2023年度 実績	2024年度 見通し	増減
売上高	273	280	+7
営業利益 (営業利益率)	28 (10.3%)	28 (10.0%)	±0 (▲0.3pt)

※子会社決算は子会社の連結調整前の数字となっております。そのため、単体+子会社=連結業績とはなりません。

【1】 2023年度の実績

【2】 中期経営計画の改定及び2024年度の見通し

【3】 トリシマのイノベーション

～世界の課題を解決し、社会に価値を生み出すために～

【4】 株主還元方針

トリシマのマテリアリティ（重要課題）

今後も引き続き、トリシマが得意とする分野での課題解決に貢献し、社会に欠かせない企業をめざします

世界の潮流と社会課題

トリシマのマテリアリティ
（重要課題）

社会に貢献できる
製品・サービス

めざす姿

社会に欠かせない企業



トリシマのマテリアリティ 現在の概況及び今後の取組み

		これまでの成果（～2023年度）	これからの取組み（2024年度～）
脱炭素社会への取組み	スーパーエコポンプによる省エネ推進	<ul style="list-style-type: none"> 世界最高水準のポンプ効率MEI\geq0.7を達成したスーパーエコポンプの販売開始 	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ及び脱炭素社会実現のために積極的な提案活動の推進
	次世代エネルギー用ポンプの提供	<ul style="list-style-type: none"> アンモニア <ul style="list-style-type: none"> JERAアンモニア混焼実証試験向けに納入（運転中） 独Hermetic社（世界No1キャンドモーターポンプのメーカー）と業務提携。インタンクポンプのシステムを共同で開発。 水素 <ul style="list-style-type: none"> NEDO「競争的な水素サプライチェーン構築に向けた技術開発事業」に液化水素ポンプの開発が採択 超伝導モーターを搭載した世界初の大量液化水素ポンプを開発し運転試験に成功 	<ul style="list-style-type: none"> アンモニア <ul style="list-style-type: none"> アンモニア実液での運転の公開試験（国内商用と同仕様） 水素 <ul style="list-style-type: none"> 大量化・高圧化の開発を継続（NEDO補助事業継続～2027年度） CO2 <ul style="list-style-type: none"> CO2回収プロセス向けポンプの取扱い開始
安全・安心な社会の構築	水不足・食料不足を解決するポンプの提供	<ul style="list-style-type: none"> 北アフリカ、中東諸国を中心に海水淡水化プラントへ多数のポンプを納入 深海での海水淡水化プラントを手掛けるWaterise社の独占的パートナー（ポンプ担当）として業務提携、実証機の開発開始 	<ul style="list-style-type: none"> 海水淡水化プラント向けのポンプは引き続き、顧客ニーズに対応する製品を提供 深海ポンプ実証機の運転試験を実施
	気候変動対策向けポンプによる減災技術の推進	<ul style="list-style-type: none"> TMEIC社（東芝三菱電機産業システム株式会社）と「空冷式耐水モーター一体型ポンプ」を共同開発 香港の排水機場向けに当社最大サイズの排水ポンプを受注 	<ul style="list-style-type: none"> 耐水モーター一体型ポンプの適用範囲を拡大（横軸、大量化によりあらゆる機場で採用可能に）
データ・AIの活用	データに基づくスマートメンテナンスの提供	<ul style="list-style-type: none"> TR-COMが「インフラメンテナンス大賞」農林水産省特別賞を受賞（官公需への拡大） 危険場所（ゾーン2）でも使用可能なTR-COM防爆仕様を販売開始 	<ul style="list-style-type: none"> 労働人口減少に向け、データによるメンテナンス提案活動の促進 TR-COM防爆仕様の販売エリア拡大

データに基づくスマートメンテナンスの提供

TR-COM 防爆型の無線振動センサを提供開始

2018年より販売開始した回転機械モニタリングシステムより、お客様のニーズを受けて**防爆型**をリリース。

第7回 インフラメンテナンス大賞

「農林水産省特別賞」を受賞

適用エリアの拡大により
受注増に期待。



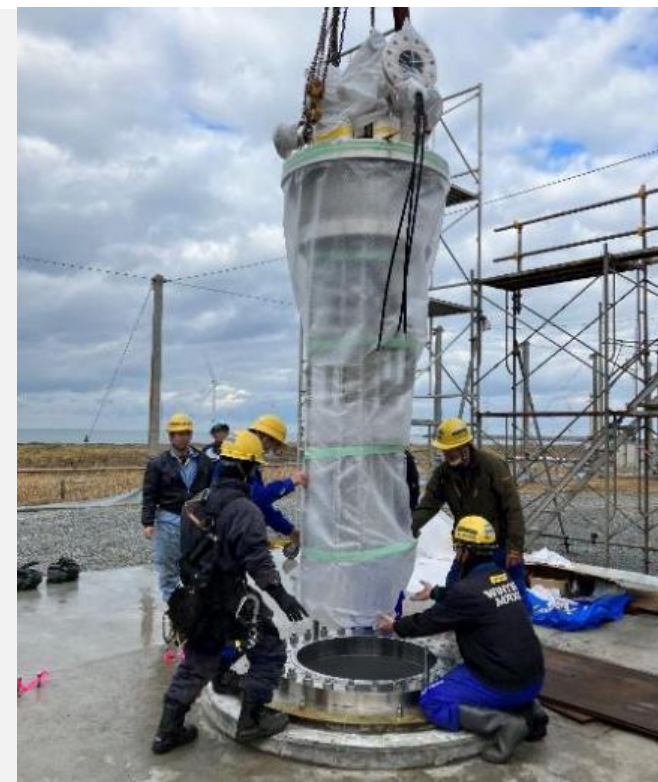
無線振動センサ「b-Monitor 2 Ex」

次世代エネルギー用ポンプの提供（水素）

NEDO採択「大流量・高圧・高効率な液化水素昇圧ポンプ」の開発に向けて、**超伝導モータ搭載の液化水素ポンプ**を京都大学と共同開発。

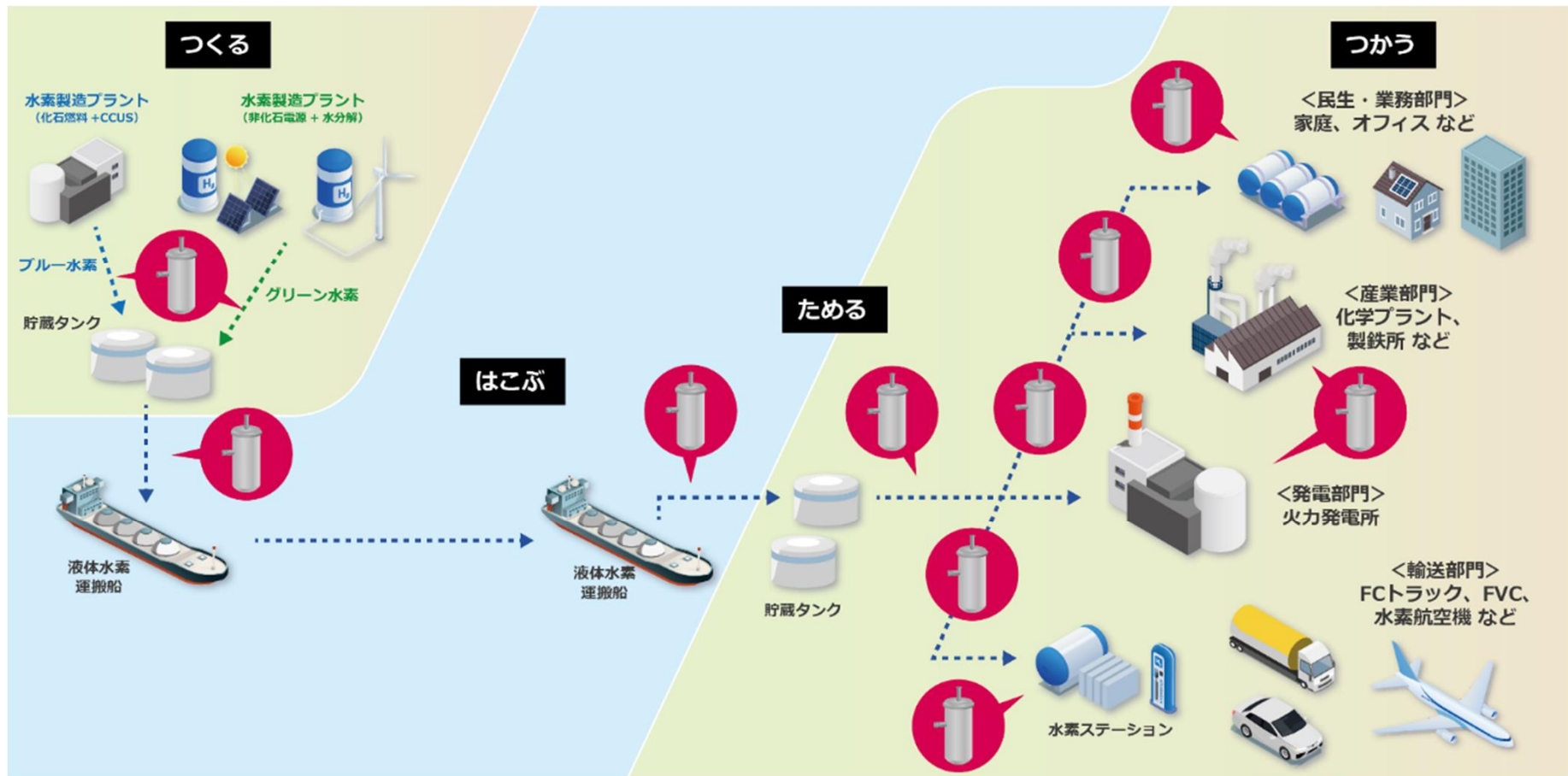
JAXAで運転試験を実施、**世界初の仕様を達成**。

- 最大回転速度 : **5,000 min⁻¹**
 - 最大流量 : **30.5 m³/h (24,000 Nm³/h)**
 - 最高圧力 : **1.6 MPaG**
 - 最大電動機出力 : **30 kW**
-
- 液化水素用の遠心ポンプにおいて、**世界最高スペック！**
 - **超電導モータ**が産業機械の原動機として使用されるのは世界初！
 - 5,000min⁻¹、30kW達成は、**大きなブレイクスルー！**
 - 産学の技術が高いレベルで融合された成果！




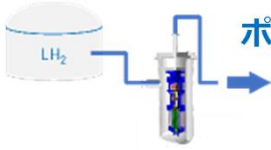
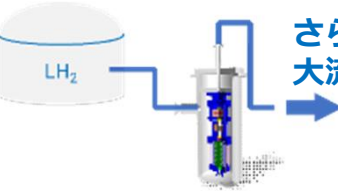
次世代エネルギー用ポンプの提供（水素）

「つくる」「はこぶ」「つかう」のすべてにポンプが必要なことから、大きな市場規模を見込む。



次世代エネルギー用ポンプの提供（水素）

すでに商用化レベルの製品開発を完了。今後は、政府目標に先駆けて、サプライチェーン構築のカギとなる大流量液化水素ポンプの開発を促進。

政府目標		トリシマ開発予定			
フェーズ	水素目標コスト	西島 開発完了	機器構成イメージ	流量	差圧
商用実証 (~2030年)	100 円以上 /Nm ³ (現在)	完了		1 (基準)	1 (基準)
商用化 (2031年~)	30 円 /Nm ³ (2031年~)	2026 年度	 ポンプ台数削減に寄与	1	3 ↓ 高圧化
将来商用 (2050年)	20 円 /Nm ³ (2050年)	2027 年度	 さらなる 大流量ニーズに対応	8 ↓ 大流量化	3

次世代エネルギー用ポンプの提供（アンモニア）

燃料アンモニア用ポンプの開発・製造 2027年の商用化に向けて、順調に進捗中



2023年7月

20%アンモニア混焼実証試験用ポンプを納入

2024年3月

JERA碧南発電所で実証試験開始

次世代エネルギー用ポンプの提供（アンモニア）

2024年6月（予定）

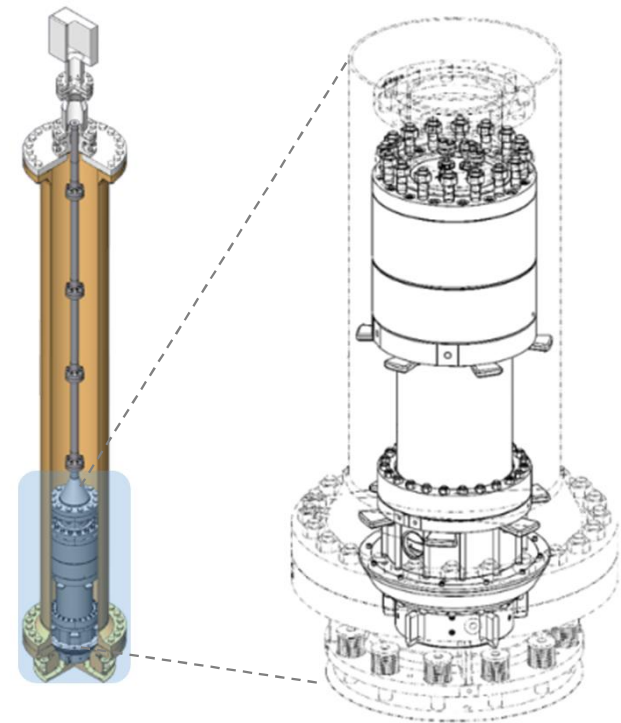
JERA碧南発電所の実証試験完了後、そこで得た知見をもとに、大型商用化ポンプの開発を加速

2024年9月（予定）

実液アンモニアを使ったインタンク型ポンプシステムのデモンストレーションをインドネシアで実施予定



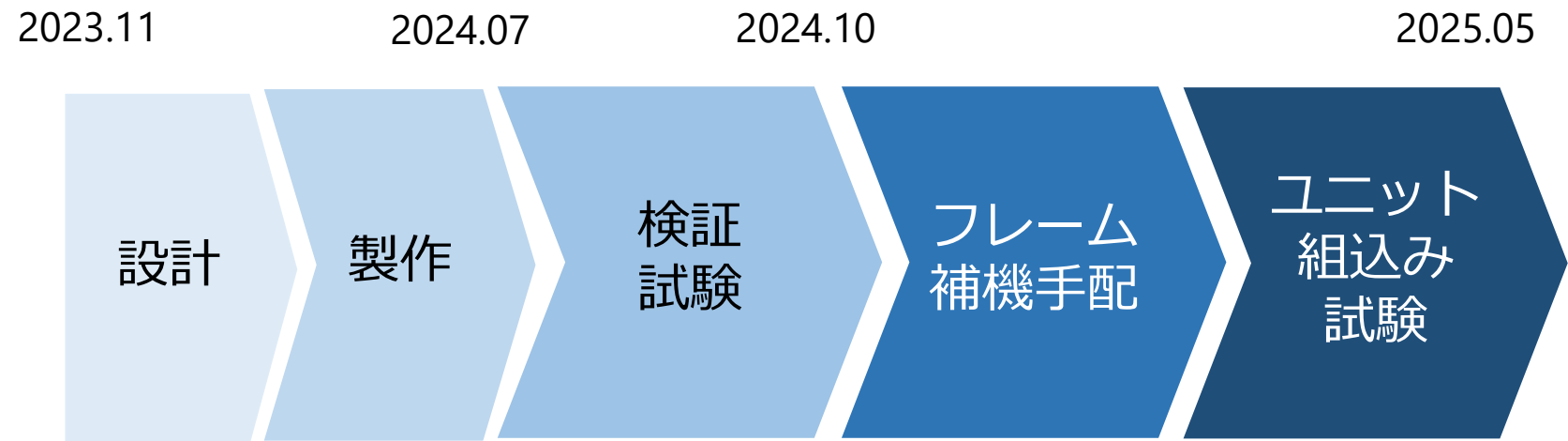
ドイツHERMETIC社と共同開発中
インタンク型アンモニアポンプ



水不足・食料不足を解決するポンプの提供

深海500mの海水淡水化プラントに向けて
プロトタイプ（試作機）の設計完了。

2024年10月の検証試験に向けて順調に進行中



深海での
ポンプユニットイメージ

【1】 2023年度の実績

【2】 中期経営計画の改定及び2024年度の見通し

【3】 トリシマのイノベーション

～世界の課題を解決し、社会に価値を生み出すために～

【4】 株主還元方針

株主還元方針

水と電気のインフラを支えるポンプメーカーとしてトリシマは、長期にわたり堅実な成長を実現するとともに、株主の皆様へも安定的・継続的な利益還元を行うことを重要な経営課題として捉えています。

(1) 毎年の配当金

中長期視点での価値創造に必要な投資を優先した上で、以下を

✓ **純資産配当率（DOE）3.0%及び配当性向35%**を目安に、**累進配当をめざす**

(2) 自己株式

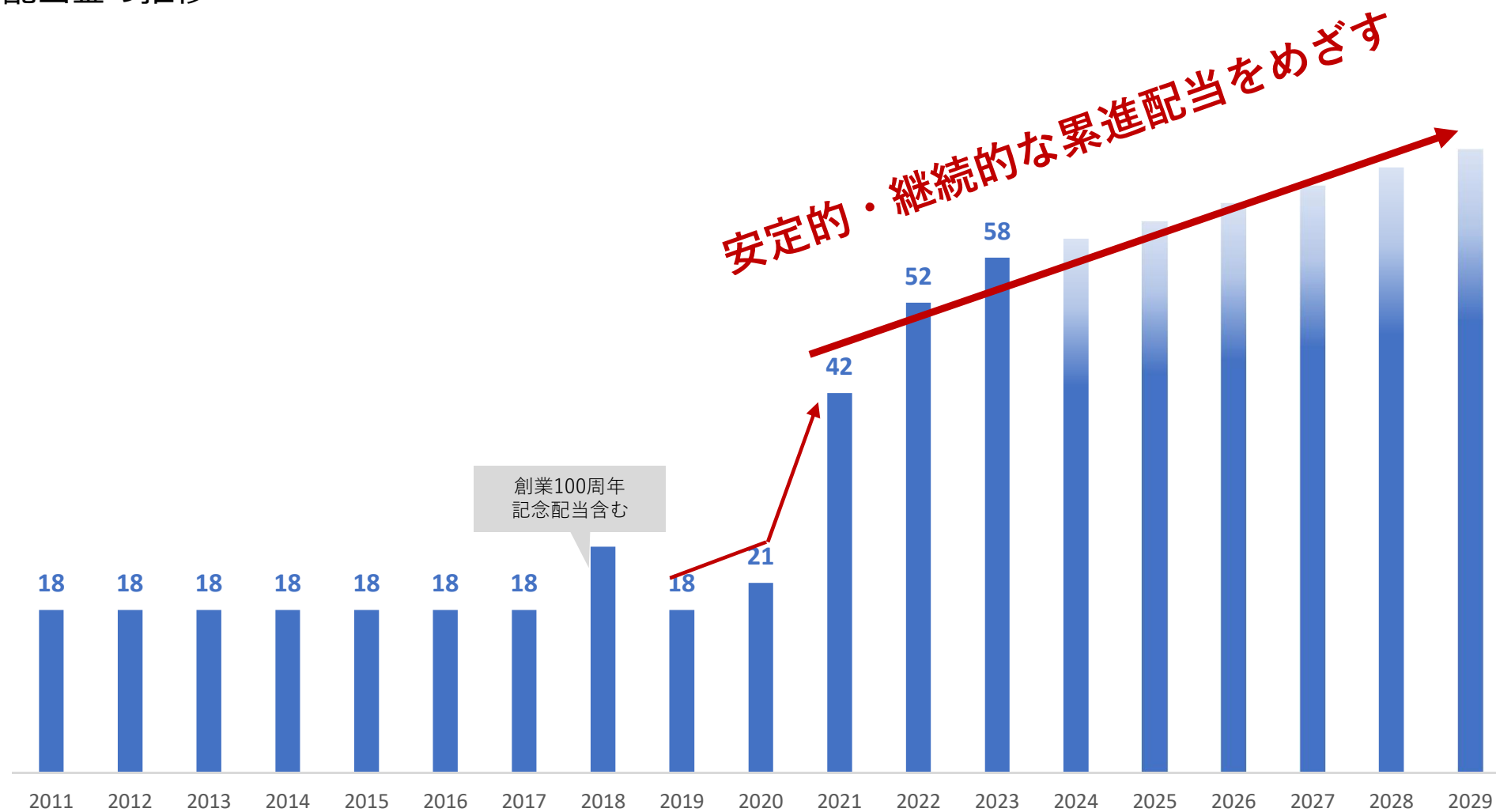
必要な内部留保の水準を考慮しつつ、資本の状況や経営環境の変化、当社株価の動向などを考慮した上で機動的に実施。

2023年度の年間配当は、前年度比6円増の58円。

特別利益が大幅増加したため、配当性向は一時的に下がるが、今後も累進配当を維持する。

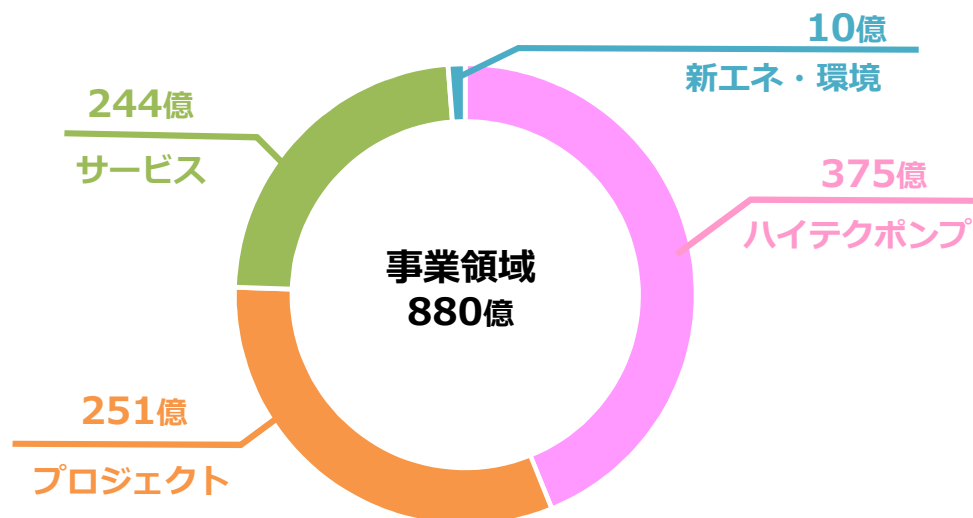
	2022年度	2023年度	2024年度 予定
一株当たり年間配当（円）	52	58	60
純資産配当率（DOE）（%）	3.1%	3.2%	3.0%程度
配当性向（%）	31.3%	25.0%	30.0%

配当金の推移



參考資料

事業領域及び需要先 (2023年度受注高実績)



ハイテクポンプ

発電所や海水淡水化プラント、上下水道施設、かんがい施設など向けの大型ポンプ（エンジニアリングポンプ）及び一般産業向けのエコポンプ（小型標準ポンプ）。

プロジェクト

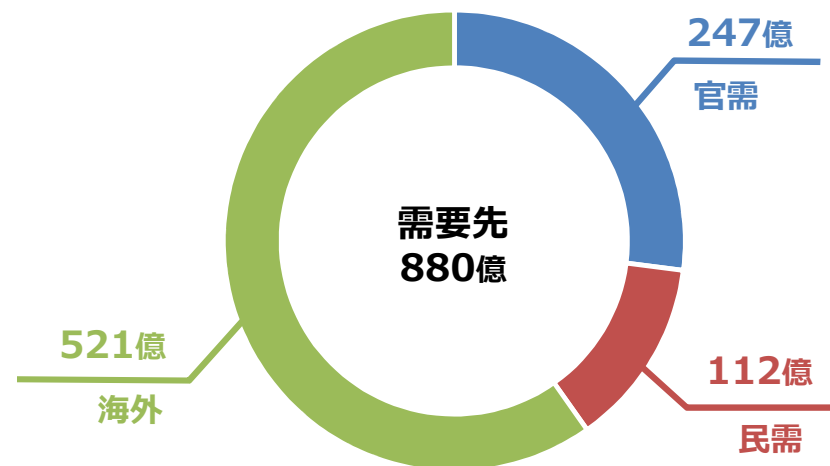
上下水道、かんがい、排水ポンプ場におけるポンプ設備全体のEPC（設計・調達・建設）案件。

サービス

既存ポンプ及びポンプ設備の取替え、保守点検、REDU（Re-Engineering & Design Up）、SV（スーパーバイザー）の派遣、部品交換など。

新エネルギー・環境

風力発電や小水力発電の導入における設計・施工・メンテナンス。
環境装置（農業集落排水向け真空式下水道収集システム）



官需

日本国内の国及び地方公共団体向け。上下水道施設、排水施設及びかんがい施設など。

民需

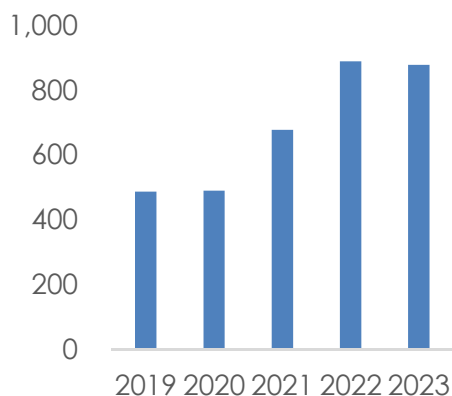
日本国内の民間企業向け。火力発電所（事業用、バイオマス発電やごみ焼却発電、自家発電含む）、一般産業の各種工場、ビル設備、商業施設など。

海外

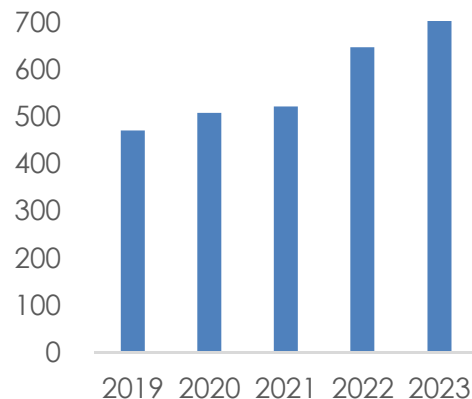
海外向け海水淡水化プラント、火力発電所、上下水道施設かんがい施設など。

連結決算 5年間の推移 (単位：億円・利益率(赤)は%)

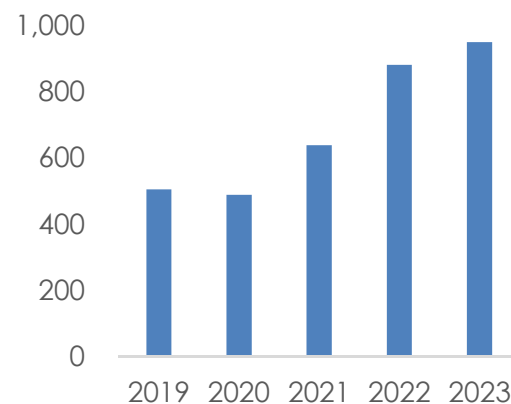
受注高



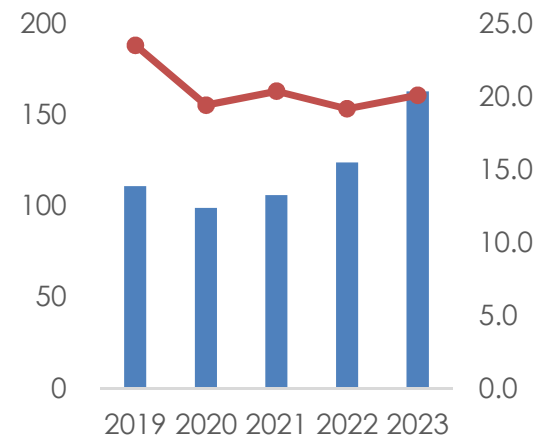
売上高



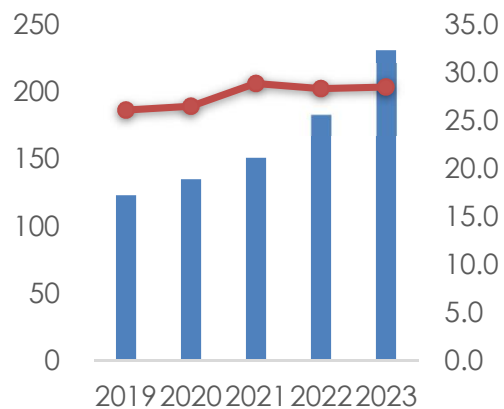
受注残高



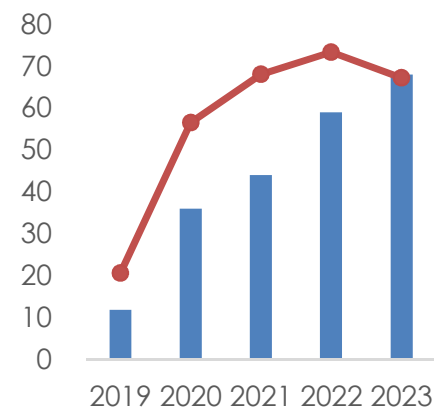
販管費/販管費比率



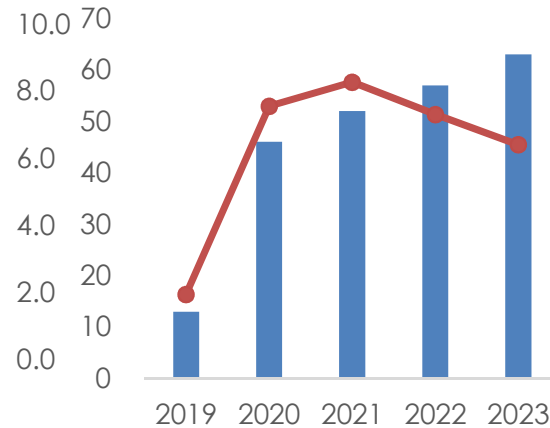
売上総利益/利益率



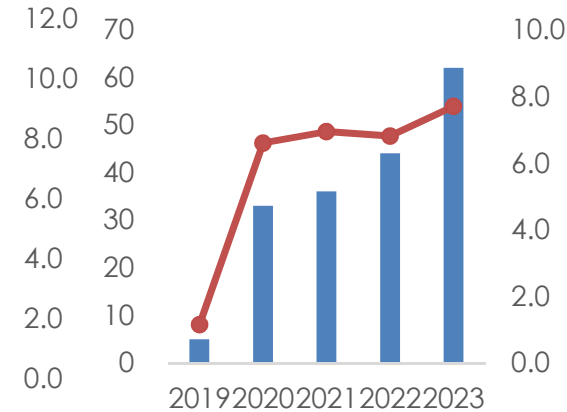
営業利益/利益率



経常利益/利益率



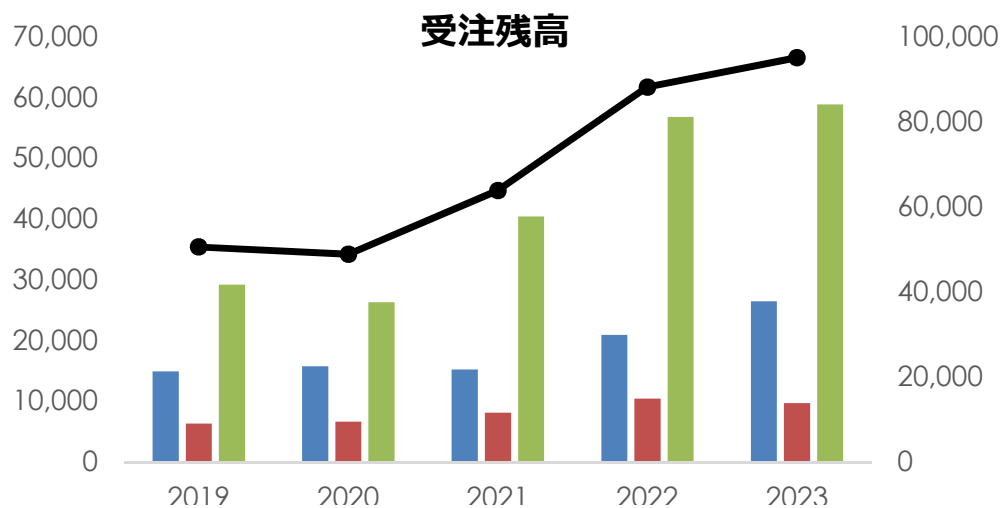
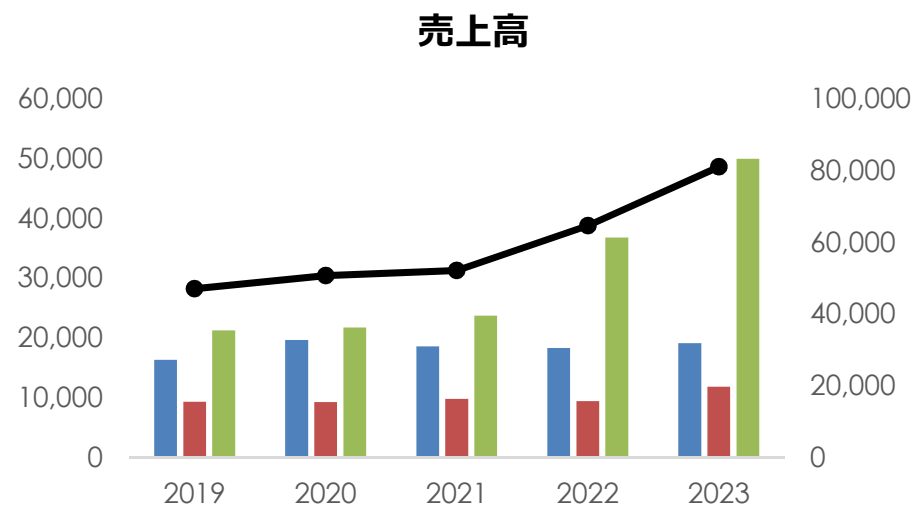
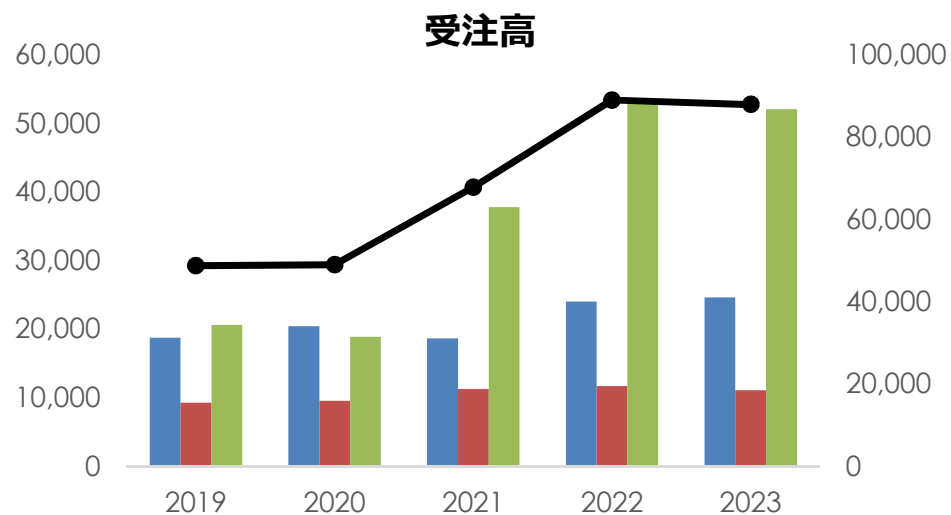
当期純利益/利益率



需要先別受注残高・受注高・売上高 (百万円)

	2022年度			2023度		
	受注	売上	受注残	受注	売上	受注残
官 需	24,061	18,353	20,980	24,683	19,150	26,513
前年増減率	28.6%	▲1.4%	37.4%	2.6%	4.3%	26.4%
民 需	11,770	9,468	10,499	11,164	11,915	9,749
前年増減率	3.8%	▲4.0%	28.1%	▲5.1%	25.8%	▲7.1%
海 外	53,197	36,838	56,805	52,107	50,037	58,875
前年増減率	40.6%	55.0%	40.4%	▲2.0%	35.8%	3.6%
合 計	89,028	64,659	88,286	87,955	81,103	95,138
前年増減率	31.1%	23.8%	38.1%	▲1.2%	25.4%	7.7%

受注高・売上高・受注残高の推移（需要先別）



左軸

■ 官需 ■ 民需 ■ 海外

右軸

● 合計額

単位：百万円

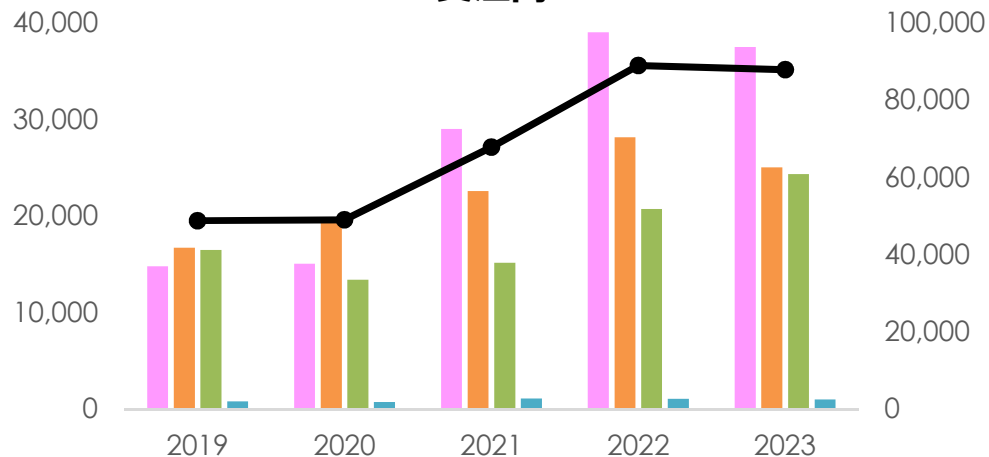
事業分野別受注高・売上高・受注残高

単位：百万円

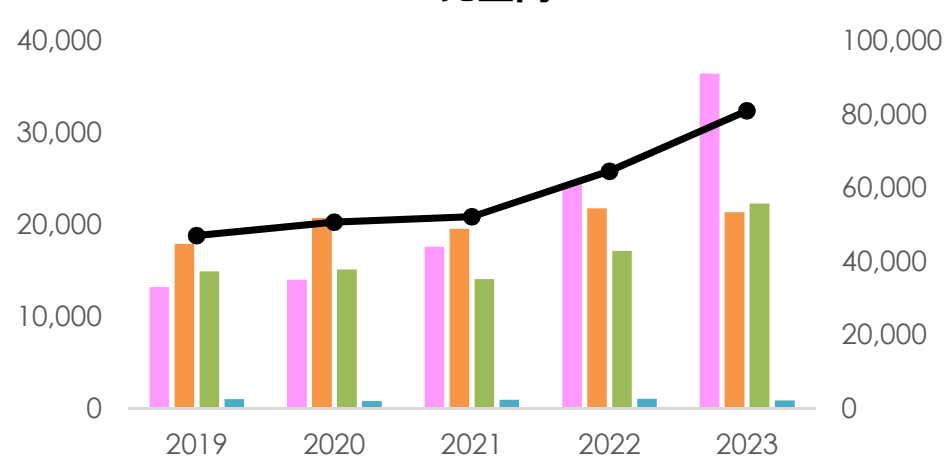
		2022年度			2023年度		
		受注	売上	受注残	受注	売上	受注残
ハイテクポンプ		39,064	24,602	46,539	37,542	36,499	47,583
	前年増減率	34.5%	39.6%	45.1%	▲3.9%	48.4%	2.2%
プロジェクト		28,172	21,812	30,344	25,057	21,396	34,005
	前年増減率	24.7%	11.3%	28.7%	▲11.1%	▲1.9%	12.1%
サービス		20,737	17,172	11,243	24,367	22,318	13,292
	前年増減率	36.6%	21.9%	39.2%	17.5%	30.0%	18.2%
新エネ・環境		1,055	1,073	160	989	891	258
	前年増減率	▲2.9%	13.9%	▲10.1%	▲6.3%	▲17.0%	61.3%
合 計		89,028	64,659	88,286	87,955	81,103	95,138
	前年増減率	31.1%	23.8%	38.1%	▲1.2%	25.4%	7.8%

事業分野別受注高・売上高・受注残高（百万円）

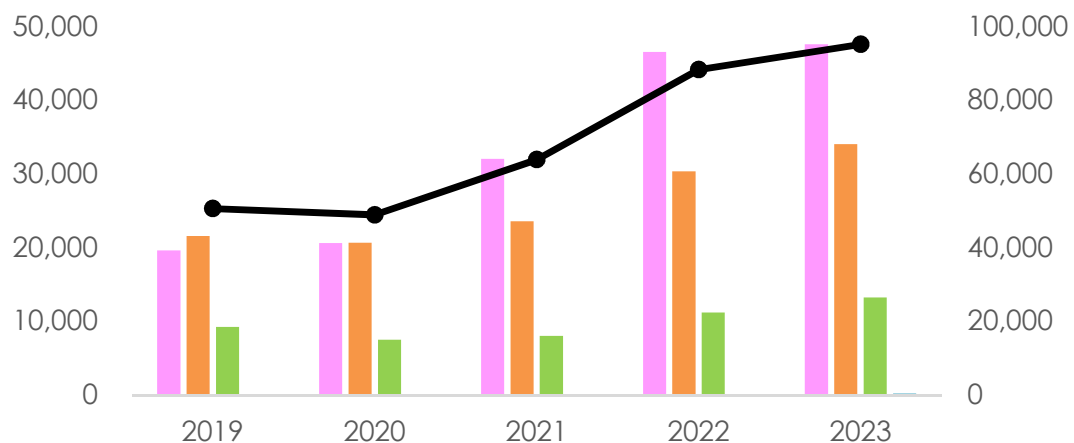
受注高



売上高



受注残高



左軸

ハイテクポンプ

プロジェクト

サービス

新エネ

右軸

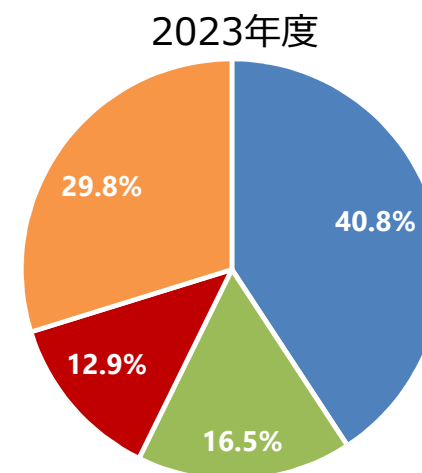
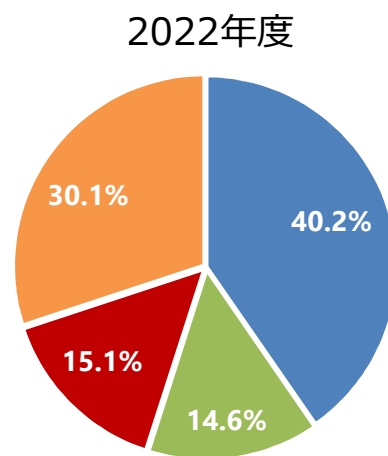
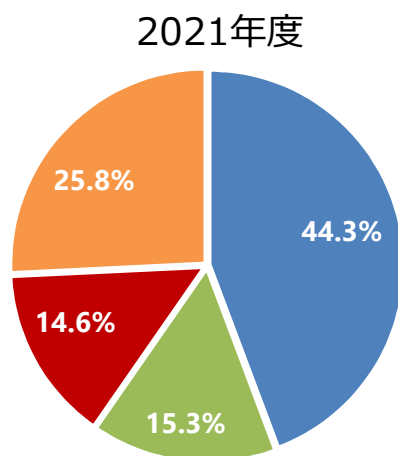
合計額

地域別受注高

単位：百万円

	日本	海外全体	海外内訳			合計
			アジア	中東	その他	
2021年度	30,051 (44.3%)	37,836 (55.7%)	10,455 (15.3%)	9,888 (14.6%)	17,493 (25.8%)	67,887
2022年度	35,831 (40.2%)	53,196 (59.8%)	12,991 (14.6%)	13,383 (15.1%)	26,822 (30.1%)	89,027
2023年度	35,848 (40.8%)	52,107 (59.2%)	14,528 (16.5%)	11,377 (12.9%)	26,201 (29.8%)	87,955

- 日本
- アジア
- 中東
- その他



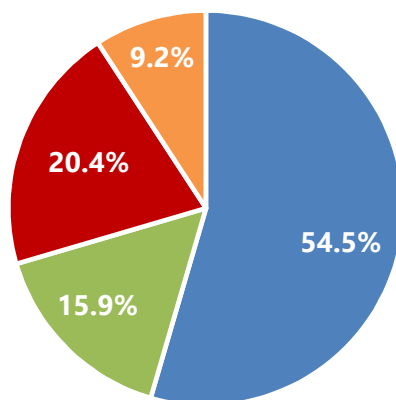
地域別売上高

単位：百万円

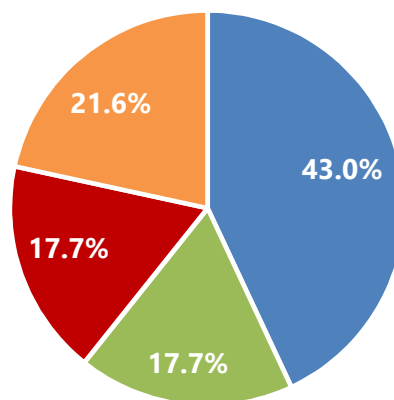
	日本	海外全体	海外内訳			合計
			アジア	中東	その他	
2021年度	28,475 (54.5%)	23,765 (45.5%)	8,329 (15.9%)	10,621 (20.4%)	4,815 (9.2%)	52,240
2022年度	27,821 (43.0%)	36,836 (57.0%)	11,442 (17.7%)	11,430 (17.7%)	13,964 (21.6%)	64,657
2023年度	31,066 (38.3%)	50,037 (61.7%)	13,411 (16.5%)	10,822 (13.4%)	25,803 (31.8%)	81,103

- 日本
- アジア
- 中東
- その他

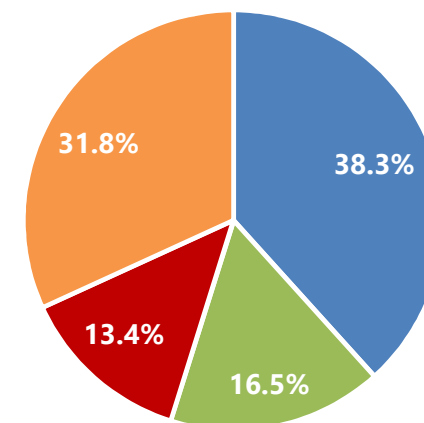
2021年度



2022年度



2023年度



本資料の業績などに関する将来の予想、見通しなどは現時点で入手可能な情報に基づき算出したものです。

したがって、実際の業績は今後の様々な要因によって、異なる結果となる可能性があることをご了承ください。

【お問い合わせ先】

株式会社 西島製作所 総務部 コーポレートブランディング課

Tel : 072-695-0551

Email : ir-torishima@torishima.co.jp